



変形性関節症

整形外科 医長 霜村 耕太

現在日本は高齢化社会を超え超高齢社会となっており、平均寿命が延びていることで、整形外科におけるけが以外の手術（例えば人工関節や腰の手術など）を受けられる患者さんの年齢も上昇傾向にあります。

その中でも、変形性関節症は中高年の方に多くみられる疾患で、80代後半や90代になってから定期的に外来通院が必要になったり、変形性膝関節症による痛みなどで寝たきりになったりしてしまうのを防ぐために、内服治療や手術治療を適切なタイミングで実施することが重要と考えられています。

今回は、日常生活で特に重要な機能を持つ下肢の変形性関節症についてお話しします。右の説明の通り、変形性関節症はあらゆる関節に起こる可能性があり、一次性（原因のないもの）と二次性（過去のけがなど）のものがあります。また、加齢や肥満、遺伝的素因も発症に関与していると考えられています。

典型的な症状としては歩き始めなどの運動開始時における下肢の痛みがありますが、安静にすることにより軽快します。いずれもまずは保存治療として内服、外用剤、リハビリ（運動療法、温熱療法、電気療法）、装具療法が開始されますが、症状が持続、悪化する場合は手術治療が考慮されます。

いずれの疾患、手術方法にも当科は対応していますので、ぜひお気軽にご相談ください。

【膝関節】女性の割合が高く、60代で20～50%、70代ではさらに割合が高くなります。レントゲンなどの画像上で変形を認める患者さん全てに症状が出現するとは限らず、症状が出現する割合は60代以降で10～18%程度とされます。膝関節の人工関節手術は日本で年間7万5千例行われています。



【股関節】発症する割合が低く、70代で数%以下とされています。日本では股関節のかぶりが浅いなど先天的な股関節形成不全による二次性変形性股関節症が最も多いです。股関節の人工関節手術は日本で年間3万例行われています。



【足関節】発症する割合は膝関節や股関節よりも、さらに低くなります。手術方法として過去には固定術（足関節を動かなくすることによって痛みを軽減させる治療法）が主流でしたが、昨今の日本では人工足関節への置換手術が導入されてきており、当科でも今年度より実施しています。



【足趾】外反母趾を持たれている患者さんが多く、50代以上の女性のうち20～30%程度が発症する可能性があるとされています。変形が強く装具療法でも軽減しない痛みがある場合や、外見上の理由で手術を選択される患者さんが多いです。



11月の救急医療機関

	外科休日当番医 (8:30～翌8:30)	歯科休日当番医 (9:00～12:00)	電話番号	住所
3日(日)	滝川脳神経外科	ぬまくら歯科	0164-22-5615	深川市1条12-16
4日(月)	市立病院	なかむらファミリー歯科	0125-26-2282	滝川市滝の川町東3丁目1147-7
10日(日)	滝川脳神経外科	田中歯科医院	0124-22-8700	芦別市北4条西1丁目1-16
17日(日)	市立病院	歌志内ホワイト歯科クリニック	0125-42-4618	歌志内市字本町1027-30
23日(土)	市立病院	北竜町立歯科診療所	0164-34-2656	北竜町字和2-17
24日(日)	滝川脳神経外科	しらかば歯科	0125-76-4181	新十津川町字中央308-16

※市立病院…Tel 22-4311/ 大町2丁目2-34 滝川脳神経外科…Tel 22-0250/ 西町1丁目2-5
休日の内科・小児科の診療は市立病院で受け付けます（8:30～翌8:30）。

平日の時間外診療の協力医療機関については当番病院案内ダイヤル（Tel 22-2299）でお知らせします。